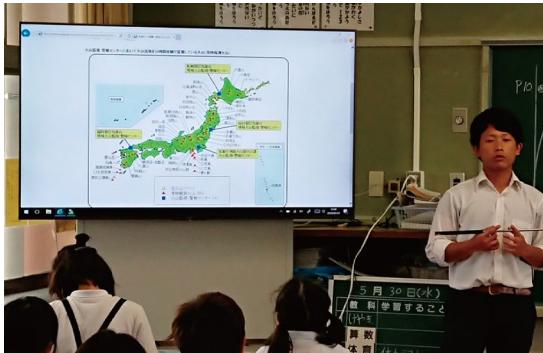


拡大しても文字・画像が鮮明 肉眼で見えない虫も見える



左から現在使用中の50インチ2K、6月発売の65インチ4Kブラビア「KJ-65X9000F/BZ」、KJ-65X8500F/BZ、他機種65インチ2K



拡大提示しても資料集や教科書の絵や文字がはっきり見えた

倉敷市教育委員会は平成21年度スクール・ニューディール事業で小学校に導入したデジタルテレビが8年を経過している。そこで5月29日、ソニーの協力を得て4K解像度の65インチディスプレイを教室に持ち込んで授業に活用。その後、ソニーのディスプレイ新製品2種と現在使用中の50インチ2K、他機種65インチ2Kディスプレイを並べて植物などの実物や教科書等授業で活用するものを書画カメラで提示。その見え方や機能を比較・検証した。

島正敏館長は「導入して8年を経過しており、故障した際に部品などの替えがなすべく対応できないこと、当時十分であると感じていた50インチサイズに物足りなさを感じること、解像度の高い4Kディスプレイの教育効果への期待もあり、4K解像度の画面の見え方を比較検討したいと考えた」とこの日の検証の目的を語った。

5年社会の授業では、4Kブラビア「KJ-65X8500F/BZ」を活用。は教員用タブレットPCで撮影した教科書の図や写真、Webコンテンツを提示しながら、日本の地形の特徴について児童に考えさせ、発表させていった。軽く薄く、縁もスリムで「黒板に貼った模造紙に画像が提示されている」印象だ。拡大提示しても文字や画像が「つぶれず見えやすい」。



直径3センチ程度の葉を4K解像度の書画カメラ（エルモ社）で65インチに拡大提示。肉眼では見えない虫や葉毛がはっきり見えた。

授業後は、6月発売の65インチ4Kブラビア「KJ-65X8500F/BZ」と「KJ-65X9000F/BZ」、現在使用中の50インチ2K、他機種65インチ2Kディスプレイ4点を並べて比較。4K解像度の書画カメラを使って英字新聞や教科書紙面、葉や紙幣を提示した。

4Kブラビアでは、直径3センチ程度の葉を拡大すると、肉眼では見えない虫が何匹も動いている様子や葉毛がはっきり見えた。立体感もはっきりわかる。ソニーの画質技術により、コントラストがはっきりして文字や図が見えやすく、微妙な色合いも再現。4K対応コンテンツではない静止画や動画をアップコンバートして提示できる画像処理機能もあり、より鮮明に提示できるという。4K対応書画カメラ（エルモ社）と連動でき、書画カメラをHDMIケーブルでディスプレイと接続すると自動でディスプレイの電源がオンになり、使用後にHDMIケーブルを抜くとディスプレイの電源がオフになる機能もある。

高解像度4Kディスプレイの 教育効果を検証

倉敷市教育委員会

4K未対応画像も鮮明に

尾島氏は「正面からの見え方、斜めからの見え方も比較でき、同サイズでもソニーのIPSパネル方式の方が、教科書の文字が見えやすいことが分かった」と語った。



地図帳の細かい文字も4Kならくっきり

サポートを充実 法人向けブラビア

同社の学校向け提案モデルの法人向けブラビアでは、専用サポートとして3年間の長期保証と修理時やお問い合わせ時の専用窓口を提供。故障の際は専用のサポートスタッフが学校に向いて修理対応する。

リース契約にも対応。各教室に最適な音量設定を1台ごとに設定することもできる。